

## 研究課題の名称

当院リハビリテーション部の腰痛による Presenteeism(能力低下による損失)と Absenteeism(欠勤による失)の関係

## 研究の目的及び意義

邦は「健康寿命延伸」といった成長戦略のもと、3次予防から1次(2次)予防への大胆シフトが起こって

、ます。それに伴い全国では健康経営といった健康管理を経営的視点から考え、生産性の向上を目指取り組みと両立支援といった動労者の高齢化と疾病を抱えながら働く人が増える予測に対しての取り

みが進んでいます。また、Industrial Healthにて最も就労に影響している症状は、世代を問わず「腰痛」

・あることは分かっています。ここに着目し、当院リハビリテーション部職員が金銭的にどの程度損失をいっており、介入によりどの程度の腰痛が改善し、就労状況や経済効果があるのかを検討することを目的とします。

## 研究対象者の選定方針

**当院リハビリテーション部職員で、非特異的腰痛を有しパフォーマンス低下をきたしている者**

## 研究予定期間

承認日(2019年8月27日)から西暦2020年3月31日